むすび塾

巡回ワークショップ　@名取市閖上・上町町内会

教訓継承　街づくりの礎

東日本大震災の教訓を地域の備えに生かすため、河北新報社は6月23日、第15回巡回ワークショップ「むすび塾」を名取市閖上地区で開いた。上町町内会の役員らが、復興途上における減災対策や伝承のあり方などについて意見を交わした。

◇

減災・復興支援機構（東京）の木村拓郎理事長が進行役を務め、防災士会みやぎの保田真理理事（東北大災害科学国際研究所助手）も話し合いの輪に加わった。

上町町内会は県道塩釜亘理線の東西にまたがり、約50世帯が流失を免れた自宅を補修して暮らす。被災地域で唯一、存続する町内会だ。防潮堤などが整っていない中で、復興するまでの間、住民の命をどう守るかが課題になっている。

多くの住民にとって、最も近い避難場所は、旧閖上小3階になる。震災発生後、校舎には多くの住民が上階に避難して助かったが、孤立状態となり、寒さなどで苦労した。町内会長の今野義正さん(70)は「避難場所として、水や発電機など最低限の備えが必要だ」と話した。

参加者からは、震災時に防災行政無線が機能しなかったことに不満や不安の声が出た。木村理事長は「防災無線は万能ではない」と話し、携帯ラジオなど複数の情報手段を身近に確保しておく重要性を強調した。

閖上地区をめぐり、名取市は区画整理事業と集団移転を組み合わせて現地再建する考えだが、内陸移転を望む住民が多く、合意形成が進んでいない。参加者の一人は「家族や家を失っただけではなく、コミュニティーも壊れた」と、再興の難しさを打ち明けた。

木村理事長は、これまで国内各地で復興計画づくりに関わった経験を踏まえ「復興が進まず困るのは、役所ではなく住民だ。合意形成は大変だが、住民がまとまらないと行政は動かないし、復興は前に進まない」と助言した。

地元の日和山公園には、昭和三陸津波を伝える石碑が立っていたが、津波に対する住民たちの意識は低かったとされる。上町町会では震災前から年1回、独自の避難訓練を実施していた。ただ、津波からの避難は想定していなかった。

「風化させぬよう、親から子、孫へ伝えていかないと、命は守れない」「町内会の訓練に中学生も巻き込むべきだ」。会場からは、震災を後世に伝える決意の言葉が相次いだ。

保田理事は「被災地を訪れた人は震災の教訓を学び、地元は経済効果を得られる仕組みができたらいい」と提案した。

復興途中での備えや、震災の教訓の伝承について意見を交わす参加者。流失を免れ、自宅を改修して暮らす住民は一部にとどまる

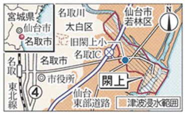
避難経路・場所が課題

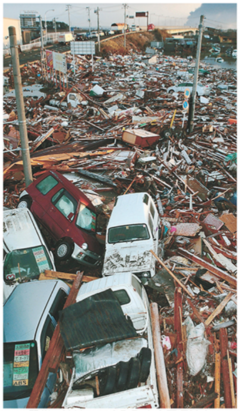
2100世帯、5700人が住んでいた閖上地区は津波で壊滅的被害を受け、約750人が犠牲になった。

上町町内会は沿岸に近い閖上１丁目から、仙台東部道路を挟んだ太子堂地区までの地域。震災前は約470世帯が加入していた。

最も内陸寄りの太子堂地区（28世帯）を除いて、浸水被害があった。同町内会によると、住民85人が犠牲になったとみられる。現在は約100世帯が仮設住宅に、約50世帯が補修した自宅に住む。

上町町内会を含めて閖上一帯は平たんで、震災前から高層階の建物が少なかった。防潮堤の整備もこれからで、避難の経路や方法、避難場所が課題となっている。





震災の津波で、上町町内会周辺は大きな被害を受けた＝2011年３月12日午前６時20分ごろ、名取市閖上

沿岸部一体で備え強化を

防災士会みやぎ理事　**保田　真理さん**

津波避難の課題の一つとして警報システムがある。震度5弱の地震が発生し、宮城県沿岸に津波警報が出された昨年12月7日も防災無線が聞こえなかったという声がたくさんあった。

言葉で警報の内容を伝えようとすると、聞き取りにくいケースが出てくる。危機感を抱かせる音を活用し、沿岸部全域の人たちに共通する、音だけで避難の必要性を判断できるような警報システムを考える必要がある。

閖上と同じような状況に置かれ、共通の悩みを抱えている他の地域もある。自治体の境界線を越えて、交流を進めてみてはどうか。

複数の地域が連携することで、地域単独よりも大きな声を発信することができるし、新しい復興のアイデアも生まれるかもしれない。

■むすび塾に参加して ――― 名取市閖上・上町町内会

【参加して】閖上を復興させて、新しい日本のモデルになる街にしたい。そのためにも、防災・減災につながる街づくりが大切だと感じた。
＝市議・荒川洋平さん(31)

【防災の課題】多くの人が、避難所に移動する間に津波に巻き込まれて犠牲になった。高台のない閖上地区には、避難タワーなどの整備が必要だ。
＝鈴木浩幸さん(52)

【防災の課題】地区のどこにいても聞こえる警報システムが欲しい。津波の通り道になりそうな道路で、水流を弱める仕組みも必要ではないか。
＝上町町内会防犯防災部副部長・針生勉さん(50)

【参加して】むすび塾での議論を生かし、減災重視の街づくりに取り組む。上町はコミュニティーが再生しつつある。諦めず、復興のスピードを上げていきたい。
＝今野慎介さん(40)

【津波避難の課題】地区のお年寄りに避難を呼び掛けても、なかなか逃げようとしてくれない。心配で仕方ない。まずは逃げてほしい。
＝民生委員・遠藤晴子さん(61)

【防災の課題】堤防などハード面の対策では津波を防ぎきれない。万が一に備えた訓練や救助体制の確立、日々の防災教育と伝承が大切だろう。
＝吉田浩文さん(46)

【参加して】閖上の再建に向けて、防災の課題を整理して知識を得ることができた。街づくりの礎となるよう頑張りたい。
＝上町町内会長・今野義正さん(70)